

# さくらじま

141号



発行：  
公益社団法人 鹿児島県社会福祉士会  
会長 東 和沖  
鹿児島市鴨池新町1-7 県社会福祉センター内  
Tel 099(213)4055  
Fax 099(213)4051

URL:<https://kagocsw.jp> E-mail:jacsw@po.minc.ne.jp

## 会長挨拶

公益社団法人 鹿児島県社会福祉士会  
会長 東 和沖

みなさん、お疲れ様です。東和沖です。

毎日、暑い日が続いています。いかがお過ごしでしょうか？

皆様には、県民の福祉向上のため、および本会発展のために、それぞれ活動していただいていることに心から感謝申し上げます。また、今年は「かごしま国体・全国障害者スポーツ大会かごしま大会」が開催されます。会員の皆様も競技・運営に参加される方も多いと思います。異常気象で体調管理も大切になります。皆様、どうかお体に気をつけてお過ごしください。

私は5月の総会で理事に再選され、会長に互選されました。ありがとうございます。いずれも3期目です。副会長は森元美隆さんと米倉治美さんのお二人です。

3期目の抱負ですが、新型コロナウイルス後の本会発展を目指したいと思います。特に活動しやすい組織作りは本会にとって大きな課題になると思います。なるべく早く、方向性と具体案を示したいと思います。

もう少し長い目で本会を見ると、鹿児島でのSDGs活動と貧困対策、相談援助の仕組み作りや災害支援等も含めた共生社会への取り組みなど課題は多いです。利用者の意思決定支援やばあとなあなどの成年後見、スクールソーシャルワーク、「生活サービス弱者」支援では、ホームレス、滞鹿外国人、本会の地域生活定着支援センターを中心とした累犯者などへの支援も重要性を増していくと思います。

全国的には、福祉の資格問題や「こども家庭ソーシャルワーカー」案件もあります。日本の福祉にとって何が大切なのか、児童虐待を防ぐにはどういう資格が求められるのか、引き続いて大きなテーマになると思います。

大変だけれども大切な時期を迎えていると実感しています。本会が一歩一歩前に進んでいけることを心掛けていきたいと思います。これから2年間、よろしくお願ひいたします。

## 副会長挨拶

大隅地区支部 副会長 森元 美隆

この度2期目の理事、そして再び副会長にも選任されました。

あっという間の1期2年でしたが、理事あるいは副会長を務めなければ知らずにいただろう、と思われる事がたくさんありました。

県全体での活動内容についてのことばかりでなく、全国レベルの中身など、今まで関わったことのないことを知ることができたことは、大きな財産となりました。同時にいかに自分がこれまで小さな範囲の中で、限られた活動しかしてこなかったか、ということも痛感しました。

毎月の三役会では、内容が最初は理解できないこともあります、戸惑うことも多くありました。最近やっと自分の意見も出せるようになった気がしています。(気のせいかもしれません)

この2年間で社会福祉士会に貢献できた中身はまだ少ないと思っています。しかし、この2年間とそれ以前の20年間の活動の中身も生かしながら、今まで以上に社会福祉士会に貢献できるよう、まだまだ学んでいくつもりです。

みなさん、これからもよろしくお願ひ申し上げます。

鹿児島地区支部 副会長 米倉 治美

鹿児島地区支部からのご推薦で理事2期目となり、副会長に選任いただきました米倉治美と申します。

私は普段、教育領域から子どもと家庭の状況を見つめ、支援に携わっていますが、子どもの抱える問題は、家庭の抱える問題であるとしみじみ痛感しています。

子どもの貧困、ヤングケアラーという言葉が世間に広まり、子どもの置かれている環境に、多くの方々の注目が集まるようになりました。知られること、関心を寄せていただけることはありがたいと感じる一方で、名付けられることによって、見落とされてしまうものも出てくるのではないかと危惧しています。

光が当たると、影もできます。何かを見るとき、私たちは別の何かを見落としています。すべてを同時に見ることはできないので、複数の場所から複数の目で見ていく、ご本人をはじめ、いろんな立場の方と手を取り合い、協力し合っていくことで、より丁寧な支援が実現するように感じています。

私は子ども家庭領域以外はまだ知らないことばかりなので、ぜひ、会員の皆様の領域のことを教えていただければと思います。社会福祉士として、それぞれの領域での経験や学びをシェアし合い、より良い支援について皆様と一緒に考えていただきたいです。まだまだ微力な私ですが、できることはやっていきたいと考えています。引き続きご指導、ご協力のほど、よろしくお願ひいたします。



## 理事就任のご挨拶

南薩地区支部 牛山 直美

先日の総会にて南薩地区支部推薦理事としてご承認いただきました、南薩地区支部の牛山直美と申します。以前、1期だけ理事をさせていただいていました、今回2回目となります。

私は社会福祉士会のおかげで成長してこれた（現在進行形）と言ってもいいくらい、会員で良かったといつも思っています。卒後、病院に勤務しながら資格取得し入会の当初から、特に南薩地区支部は活動が活発で、先輩方や仲間に恵まれ会での繋がりや学び、活動に助けられ成長させていただきました。研修会に行けば皆さん声を掛けてくださったり、繋いでくださったり。一緒にお仕事する際には社会福祉士としての背中を見せてくださいました。病院退職後、県社会福祉士会（地域生活定着支援センター）に勤務して、ソーシャルワーカークスルを磨いたりソーシャルアクションを実践しながら、会員だからこそ繋がりや学びを得られて現在に至ります。

親の介護のため数年前に退職してからは、個人事業主で社会福祉士×○○として働いています。それまでがつづり福祉の現場にいたところから、関わる頻度が減り間接的に関わる形へ変化しました。だからこそ社会福祉士の役割を見直す機会となり、さらに必要性を感じています。

コロナ禍で現場で働く皆さんもとてもご苦労されたと思います。人と会えなくなり、会の研修会や活動の形も変化しました。まだ油断はできませんが少しずつ集まったりオンラインなども活用しながら、人と繋がれる楽しみや安心感を得ながらそれぞれの現場でご活躍されることを願っております。有る環境をどう活用するか、どう作っていくかは自分自身の想いと行動次第だと考えています。

「頼まれごとは試されごと」です。皆さんと一緒に常にチャレンジしながら会を盛り上げていきたいと考えています。微力ではありますがどうぞよろしくお願ひいたします。

北薩地区支部 山口 健一郎

北薩地区支部の山口と申します。よろしくお願いいたします。理事を務めて3期目になりました。自分が慌ただしい日常を過ごしている中で、何が幸せなのだろう？とふと考えることがあります。私は何を考えて過ごしてきたのだろう？と考えることができます。令和元年1期目就任した時の自己紹介はどんな考え方？心境？だったのかな？と。その時は「家族や家庭」は活力の再生産の場所であると考えると話をしていました。ゆっくり寄り添い慌て無い慌てさせない事などが実は我々に求められていることではないか？や、専門的知識はしっかり身につけておく事で、その様な対応が出来るのだろうと考えていることや、難しいことですが決めつけではなく

て見立てが出来ているのも一つだと思うことを話していました。

令和3年2期目の自己紹介はどうだったか？

知り合いで、この社会福祉士の資格を目指すきっかけになった方の話をしました。を目指すきっかけは様々ですが、コロナ禍であるなしに関わらず社会全体は忙しく、じっくり教える体制も乏しい所も多いのではないか？どんな風にしたらいいのだろう？と悩んでいる方もいると個人的には思う処です。そんな中、当会での研修や各委員会への参加は、悩みを聞いてもらえる場ともなるのではないか？の話をしました。

先日の会報では雑談についての話を載せました。私たちは色々な方とお話しする機会があります。ナイーブな事や本当は言いたくないこと、聞きたくないことまでも踏み込んでお聞きする場合もあります。場合によるとは思いますが、その中で少し目線を変えた雑談を行なうのも手ですね、と載せました。この会に入っていると何処かで誰かと素敵な雑談をしているのではないか？と思うのです。

経験や知識が増えるにつれ引き出しが増えたり悩みも増えたり覚えたことを忘れたり、忙しいものです。何かの機会だけでもこの会に入っていて、何（なん）か良かったと思ってもらえる「会」が良いなと思う処です。これからも一助になればと思っています。



串木野・日置地区支部 久木崎 祐一

先日の総会にて地区支部推薦理事としてご承認いただきました串木野・日置地区支部の久木崎祐一と申します。私は現在、いちき串木野市社会福祉協議会に勤務しております。地域の支え合いを構築するために協働連携を図るコミュニティソーシャルワークを中心としながら、生活困窮者等への支援といったケースワークにも取り組んでおります。

ソーシャルワークの活躍の場は多岐にわたりますが、いずれの場面でも多職種、地域の方々との協働がかけません。地域主体、本人主体のソーシャルワークを展開するためには、社会福祉士の専門性が世間に広く知られ、多職種、地域の方々から信頼される存在になることが必要であると考えています。

「社会福祉士会」という団体が、このような社会福祉士の専門性の向上や会員同士の繋がりを深めたり日常の各々の仕事に役立ったりするような存在になることが肝要であると思います。微力ながら、このようなことが実現できるよう務めてまいりますので、みなさまのご指導ご協力をいただきますよう宜しくお願いいたします。

## 大島地区支部 行 勝代

大島地区支部から推薦いただき理事に就任いたしました行 勝代と申します。2期目になります。前回の1期目では初めてのことでの理事会参加時も雰囲気を読み取りつつ、大島の離島から参加しているのだから仲間たちの声を理事会に届けなければと心の中では感じても場に慣れず発言の機会が少なかったことを反省しています。

さて大島地区支部では、6月の総会で会長、事務局以外、メンバーは殆ど一新し副会長を2名に増やし離島の理事が選任されたことも初めてです。これまでに無かった新たな試みとして①定例会の前には、理事会を設ける②3月に臨時総会を行おう等支部活動計画も年度末迄、すべて埋められています。

私の役割としては大島地区支部会員の熱い思いや取り組みを県の理事会に届けること。また、多くの情報を大島に持ち帰り支部会員の皆様に伝えること。このような取り組みを通して仲間を増やし、仕事に役立て実りある社会福祉士会になればと考えています。そして離島のハンディを感じることなく社会福祉士会に入会して（いて）良かったと感じてもらえるよう活動していくらと考えています。

今期もどうぞよろしくお願ひいたします。

## 霧島始良地区支部 福田 龍光

この度、霧島始良地区支部から推薦いただき理事となりました福田龍光と申します。地区理事も3期目となりました。新型コロナウイルス感染症に翻弄された1・2期でしたが、そのような時代においても知恵と力を合わせ、停滞することなく鹿児島県の福祉の増進に取り組まれている皆様の活動に支えられながら、漸く「コロナ禍」も終焉を迎えることができました。

先日、ひょんなことから会長の代理として日本社会福祉士会理事総会に出席させていただく機会がありました。（総会内容については、日本社会福祉士会ニュースNo.208をご参照ください。）意見を交わした出席者からは、「新たな会員の獲得かつ維持」というフレーズがしばしば聞かれました。満30歳以下の新規入会者の入会金および初年度会費免除然り、解決のための策として実施している所ではありますが、やはり現に入会している私たちの熱意や魅力を持ってして声を上げる・声をかける所にあるかもしれません。

今期も精進してまいりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



## 田中 正信

今期でいよいよ最後の任期となります。（4期目）残り2年を理事としてどのように活動していくかと考える時、やはり頭に浮かぶことは、「新規会員の入会促進」です。現在、鹿児島県には約3,400人の社会福祉士の有資格者がいるとのことです。様々な理由（たとえば「仕事に就いていないから」など）から会への入会を見合せている有資格者が多数おられます。社会福祉士として仕事をしていても社会福祉士会には加入していないという方もこれまた多数おられます。

今年の総会で南薩の会員さんがおっしゃった、「新規会員とほぼ同数の既会員が退会している。新規入会促進も大切だが、既会員の退会を少なくすることも大切だと思う。」という内容には、本当にその通りだと感じたところです。私がこのように入会促進関係を考えるのには理由があります。せっかく年会費や入会費を支払って入会しているのに、「会の活動が自分の役に立たない」といった気持ちを持ってほしくないです。そのためには、「魅力ある会」にしなくてはなりません。では、「魅力ある会」とはどのようなものなのでしょう？私は、最後の2年をかけてこの課題に取り組んでいきたいと考えています。なるべく多くの会員の皆様とお会いしてお話を聞けるようにしたいと考えています。会の運営や、改善点などなんでも結構です。是非お伝えください。もちろん、事務局などにお伝えしていただくことも大切だと考えます。みんなで「魅力ある会」にしていきたいと考えています。2年間、よろしくお願いします。

## 大隅地区支部研修会 報告

社会福祉法人肝付町社会福祉協議会  
中西 義昭

大隅地区支部で6月24日に行われた地区支部研修『身寄り』がなくても安心して暮らせる共生社会についてに参加しました。講師は霧島市地域包括支援センターの加治屋明日香氏で、霧島市で策定された「身寄り」がなくても安心して暮らすためのガイドラインについて講演されました。講演では、加治屋氏がガイドラインの策定の経緯について説明され、また、身寄りのない方が直面する問題や実情、その対応策について解説されました。

社会福祉士として実務にあたっていると、『身寄り』がない方の課題にあたることがしばしばあります。完全に身寄りがない方は稀ですが、親族が遠方で高齢や障がい、病気のために支援ができない場合や、これまでの関係が悪く疎遠になっている方で、連絡を取ったところ厳しく接触を断られたこともあります。

研修では、保証人がいないことで入居、入院、入所ができない問題、医療保護入院の同意者がいない場合、病気で出かけることができない場合、金銭管

理の問題、死後事務についてなど、身寄りがない、家族による支援が受けられることによって起こる問題が網羅的に示され、それぞれの考え方や解決方法などを説明されました。また、身寄りがない、家族の支援を受けることができない若者の問題など、盲点となる部分についても知ることができました。確かに、高校や就職の時にも身元保証人が要求される場合がほとんどです。研修の最後にあった言葉「最も大切なことは『身寄り』がないことで制約、制限を受けることなく、市民として平等に受けるべき権利が守られることです」が心に残りました。

参考資料として、「霧島市『身寄り』がなくても安心して暮らすためのガイドライン」そのものも配布していただきました。全35ページの冊子でまだ全文を読めてはいませんが、今後の実践の中で活かしていくたいと思います。

また、今回の研修は新型コロナウイルス感染症のため長くおこなえていなかった完全集合型の研修でした。まだ新型コロナの影響が残る中、開催していただいた地区支部委員の方々、関係者の方々、ありがとうございました。

## 広報委員長退任のご挨拶

障害者支援施設竹山苑　苑長  
相談支援事業所ともいき　管理者  
石場　俊秋

この度、広報委員長を田島会員へとバトンタッチすることとなりました。私は約20年前に本会へ入会し、数年後には広報委員長を仰せつかりましたので、16～17年くらい広報委員長をしていたことになるかと思います。同じ人間が委員長を長く務めることは組織としてはあまり健全ではないと自覚しながら、なかなかバトンタッチが出来ずにおきましたが、今回、田島会員に快くお引き受けいただき安堵しております。

皆様ご存知の通り、広報委員会の大きな仕事が広報誌「さくらじま」の発行です。20年前、私が当時の広報委員長の原田会員にそそのかされ(?)広報委員になった頃、当時は介護保険施行直後、障害者自立支援法のグランドデザインが示された、といった頃で、福祉現場における大きな大きな転換期の時期でした。本会の研修会も鹿児島市で行われることが多く、各地から会員が集まり、原稿依頼には事欠きませんでした。広報委員の立場を活用し、いろんな分野・地域、先輩方や先生方に不躊躇にも原稿依頼を行い、多くの知識とネットワークを頂いたことは、個人的にも本当にありがたいことでした。

そういったことを続けていると、会員の方と顔を合わせるたびに「やばい、原稿を書かれる」と身構えられることもありました。当時話題になっていた「パバラッチ」と言われたことも…。しかしこれらも広報委員冥利に尽きるものです。

また、さくらじま100号の発行に携われたこと、これも大変ありがたいことでした。私自身が現場で

大先輩とあこがれているような方たちが、実は初期のさくらじま、社会福祉士会を作り上げてきたという歴史を知る機会となりました。そして100号で初代広報委員長の水流会員が「40代後半のオヤジになつた」とご寄稿内に書かれていましたが、月日は流れ、私も今やもれなく50前のおっさんになりました。社会福祉士会、さくらじまと共に歩んだ20年、なんとかまだ福祉の現場で微力ながらやれていることに感慨を覚えますし、一方まだまだやらなければならぬ事があると、思いを新たにしています。

これまでご寄稿くださった全ての皆様、手に取り読んでいただいた会員の皆様、関わっていただいた広報委員の皆様、各地区の支部長・各委員長・役員・事務局の皆様、そして指宿新生社印刷様、長い間本当にありがとうございました。そして新体制の下で、今後150号、200号と続いていく「さくらじま」をよろしくお願ひ致します。私もしばらくは副委員長としておりますので、皆様くれぐれも油断なきよう、ご寄稿の準備がたよろしくお願ひ致します。

## 広報委員長就任のご挨拶

田島　裕太

はじめまして。この度、広報委員長を務めさせていただくことになりました田島裕太と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。これまで、社会福祉士会の活動にあまり参加してこなかったので、私のことを知らない方が多いと思います。そこで、簡単に自己紹介をさせてください。

平成17年に介護福祉士の専門学校を卒業後、特別養護老人ホームで4年間介護の仕事をしておりました。その中で、施設だけでなく、生活全般の支援を行うソーシャルワーカーに憧れを持ち、社会福祉士の資格を取得することにしました。平成21年に社会福祉士になり、夢だったソーシャルワーカーの仕事に就くことができました。もともと高齢者関係の仕事をしたいと思っていたのですが、偶然のことから障害福祉の相談支援事業所に勤めることになりました。今では14年目になります。地域の中核機関として、様々なケースに対応させていただきました。それは私にとって大切な財産です。

経験等から思うことですが、ソーシャルワーカーは様々なケースに関わることで、多くの人とつながり、成長していくものだと思っています。そこで、広報委員として、皆様の活動や交流など広報活動を通じてお役に立てればと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。

